



町村の規模や財力の差を感じる土浦町役場（大正期）と九重村役場（明治期、現在のつくば市）
（「写真記録茨城の20世紀」より転載）

本校の旧本館資料室には、土浦中学校当初からの様々な記録・遺産が収蔵されている。それらは、往時の学校の様子や社会の世相を読み解く貴重な資料。それが身近に存在し、直に触れられるのは、諸先輩方の努力の賜であるとともに伝統校の証でもある。紙面裏側の資料（生徒人員町村別調査表明治40年1月現在土浦中学校）もその一つ。この資料を通し、これまでの市町村合併を考えてきたが、その一区切りを打つ今号は平成の大合併を中心に述べてみたい。

明治の大合併と昭和の大合併

折々の理念が掲げられ、実施された市町村合併。明治の大合併は、近代的な地方自治行政を実現する基盤整備をめざし、併せて小学校の設置管理や戸籍の事務処理が円滑に図れるよう、戸数³⁰⁰、500戸を基準に行われた。昭和の大合併は、戦後の地方自治、特に市町村の役割を強化するとともに、中学校1校を効率的に設置運営していくために、人口^{8,000}人を基準に進められた。その結果、江戸時代には町村数が7万余もあったが、昭和時代には町村数がその5%程の^{3,392}に激減した。

平成の大合併

明治期以来、合併を一貫して推進する国は、昭和40年に10年の時限立法として制定した「合併特例法」については、その後も延長を繰り返した。しかし合併の動きは低調で、平成7年の市町村数は^{3,190}と、30年間で²⁰²の減少にとどまった。そうした中で、地方分権をコンセプトとする「地方分権一括法」が平成11年に成立し、これに伴い、「合併特例法」も、平成7年に続き、合併促進に添う改正がさらに重ねられた。その結果、住民の直接請求により法定合併協議会の設置を要請できる制度の新設や合併特例債を中心とした財政支援措置の拡充がなされた。そればかりでなく、政令指定都市あるいは町村の市への移行の人口要件の緩和なども盛り込まれた。この強力な後押し策は、合併論議に拍車をかけることになった。

市町村側にとって、特に影響が大きかったのは、政府による合併特例債を中心とした手厚い財政支援と、同時期に進行した三位一体改革による地方交付税の大幅な削減であった。合併特例債は、合併後10年間財源として借り入れることができる地方債で、元利償還金の70%を、後年交付税により措置されるという破格に有利な条件であった。これらの特例が平成17年3月末までに合併手続きを完了した場合に限られることから、駆け込み合併

が相次ぐことになった。また、地方交付税の大幅削減は、これに対する依存度が高い小規模市町村にとっては影響が計り知れなく、財政運営への不安から合併を選択した市町村も数多くみられた。その結果、「平成の大合併」といわれた。市町村合併の動きは、平成15、17年にかけてピークを迎え、平成7年に^{3,190}も存在した市町村数は、平成23年8月1日には^{1,723}（市⁷⁸⁶、町⁷⁵³、村¹⁸⁴）に急減した。明治421年未の町村数^{11,314}が、123年を経て、実に2.5%にまで累減したことにほかならない。今昔の感を深くする。

一方、「平成の大合併」の別な側面としては、原子力発電所の立地に伴う交付金、あるいは大企業の進出による税収増等により、地方交付税への依存度が低い町村は合併に手つかずであったり、都市部における合併はほとんど進展しなかったりした。また、市町村の拡大で、地域差の拡大や地域密着度の低下、地縁共同体としてのコミュニティ崩壊や地域文化の喪失等を懸念する向きも指摘された。特に、地域文化を連綿と伝え、その地に住む人々のアイデンティティとも言える市町村名が消え、集客・観光向けをねらった斬新で、「トクする名前」優先の誕生が目立った。そもそも地名は人々の営みに根ざし、それを紐解くと、熟成された歴史と文化が溢れ出すものと言える。裏面資料の立花・玉川（いずれも行方郡）も親しまれ、歴史を帯びた村名にもかかわらず、葬り去られていった状況が、今回は怒濤のように押し寄せた感すらある。

旧本館は収蔵品も貴重な文化遺産

いずれにせよ、「生徒人員町村別調査表」を凝視していると、垣間見えたり考えさせられたりすることは余りにも多い。これ以外にも、資料展示室には、明治大正期の諸資料（史料、年度ごとの『進修』『教務日誌』『進路要覧』などが所狭しと展示されている。その一部は、これまでも小紙で幾度となく取り上げ紹介してきた。資料を介して、その時々々の学校

の教科指導内容や行事、部活動、生徒の意識や学校生活、進路先などが直に伝わってくる。併せて、当時の社会状況も透けて見えてくる。旧本館は、建物本体ばかりでなく、凡百の収蔵品も一級資料で、魅力が尽きない。それゆえ、在校生には、校長先生自らが、今年度は行っている旧本館教室における道徳授業の際にでも、逸品が陳列された各室を巡覧し、貴重な遺産の醍醐味を堪能してほしい、と思う。最後に、紙面裏面の資料を補足する意味で、「新治郡真鍋町」と「新治郡小幡村」を、中世にまで遡って紹介したい。（了）

新治郡真鍋町

《中世》真鍋 戦国期に見える地名。常陸国南野庄のうち、永祿7年に上杉謙信が関東に侵攻した際、小田氏治を攻めた時の状況を示すと思われる小田氏治方法文に「さたけの陣所 まなへのたけ、つちうらさんへん」と見え、土浦近辺の真鍋台に佐竹義昭の陣所がおかれ、土浦城に拠つた小田氏治方の菅谷氏を攻めたものと思われる。

《近世》真鍋 江戸期より明治22年の村名。常陸国新治郡のうち、土浦藩領。村高は974石・1,070石（時期により変動）。家数は90（百姓57・町人18・職人10・寺5）。土浦藩の定助郷。

《近代》真鍋 明治22年より昭和15年の町名。真鍋・殿里・木田余の3カ村が合併して成立。旧村名を継承した3大字を編成。明治24年の戸数447戸・人口569人。昭和10年の戸数1,023戸・人口2,118人。昭和15年土浦町と合併。土浦市の一部となり、3大字は同市の大字として継承。

真鍋の地は、昭和56年大部分が西真鍋町・東真鍋町・真鍋1〜6丁目・真鍋新町に表示変更。

《中世》小幡 鎌倉期より戦国期に見える地名。常陸国総社宮岡係文書や戦国期に小田氏と水戸城主江戸氏が戦った際の軍記や関係文書に小幡城主小幡長門守（小田氏流）の名が見える。

《近世》小幡 江戸期より明治22年の村名。常陸国新治郡のうち、寛文年間には下総関宿藩領。貞享4年は土浦藩領。元禄年間と幕末期は旗本板倉氏知行。村高は元禄期で1,616石、天保期で1,641石・家数は90家。

《近代》小幡 明治22年より昭和29年の村名。小幡・須釜・細谷・上青柳・下青柳・加生野の6カ村が合併して成立。旧村名を継承した6大字を編成。明治24年の戸数388戸・人口533人。昭和10年の戸数641戸・人口616人。昭和30年1月1日に他の1町6村と合併し、発足した八郷町の一部に、6大字は同町の大字に継承。平成17年10月1日、平成の大合併により、石岡市小幡となる。

資料 「生徒人員町村別調査表 明治40年1月現在 土浦中学校」(その2) (土浦などの新治郡・阿見などの稲敷郡は前号に掲載。総計は前号の生徒数も含む)にある町村名の変遷について

町村名	生徒数	古代～近世	明治22年	昭和30年	平成17年
	22				
秋津	6		秋津村(高田・串挽・野友・半原・借宿・青柳の合併)	鉾田町(S30)	鉾田市
立花	2	立花郷(平安期)・橘郷(中世)	立花村(羽生・八木蒔・沖洲・浜の合併) 古代の郷名に因む村名 立花郷の一部はM22橘村(のち小川町)	玉造町(S30)	行方市
行方	3	古代・中世=行方郷、近世=行方村、佐竹氏領→麻生藩領→天領	行方村(船子・五町田・於下・行方の合併)	麻生町(S30)	行方市
手賀	2	古代=提賀郷、中世=手賀郷、近世=手賀村、佐竹氏領→麻生藩領	手賀村(単独で形成)	玉造町(S30)	行方市
武田	1	中世=戦国期の地名	武田村(小貫・次木・両宿・内宿・長野江・成田・三和の合併)	北浦村(S30)	行方市
小高	2	古代・中世=小高郷、近世=小高村、佐竹氏領→麻生藩領	小高村(橋岡・小高・井貝・南・島並の合併) 古代小高郷に因む村名(5村とも小高郷内)	麻生町(S30)	行方市
玉川	1		玉川村(井上・出沼・藤井・荒宿の合併) 「常陸風土記による玉清井」から流れる玉川に因む村名	玉造町(S30)	行方市
玉造	4	古代=玉造部の住地、中世=玉造郷、近世=佐竹氏領→水戸藩領	玉造町(単独で形成) S30:立花・現原・手賀・玉川を合併	玉造町	行方市
現原	1	古代・中世=荒原郷	現原村(捻木・若海・芹沢・谷島の合併) 古代の郷名に因む村名	玉造町(S30)	行方市
筑波郡	29				
葛城	3		葛城村(刈間・東平塚・西平塚・下平塚・根崎・西大橋・西岡・島・山中・柳橋・平・大白谷・小白谷・新井・原の合併) 総鎮守八坂神社の所在地である旧前間村葛城からの村名	谷田部町(S30)	つくば市
旭	4		旭村(要・遠東・中東原村新田・土田・高野・百家・酒丸・沼崎・今鹿嶋の合併) 日の丸の扇が9本骨であることを吉とする古例に因んだ村名 豊里町(S30)、要のみ大徳町	つくば市	つくば市
大徳	1		大徳村(大曾根・若森・佐・篠崎・前野・長高野・玉取の合併) 大曾根と古代の方磯郷に因んだ村名 S28町制、S28栗原村藩沼、S30旭村要、S31吉沼村吉沼の一部及び同村五人受・大砂・西高野を編入	大徳町(S31)	つくば市
小田	4	中世=小田氏の拠点、近世=佐竹氏領→天領→青海高島藩領→旗本横山氏知行→土浦藩領	小田村(平沢・山口・小和田・小田・北太田・大形・下大島の合併)	筑波町(S30)	つくば市
北條	4	佐竹氏領→天領→近江山路藩領→旗本堀田氏知行→土浦藩領	北条町(北条町・君島村・泉村・小泉村の合併)	筑波町(S30)	つくば市
筑波	2	古代=筑波郷、中世=筑波、近世=佐竹氏領→知足院領→護持院領→筑波神社領	筑波町(筑波・沼田・国松・上大島の合併) S30田井村・北条町・小田村・田水山村、S31作岡村、S32菅間村を合併	筑波町	つくば市
田井	2		田井村(神郡・白井・漆所・杉木・大貫・小沢の合併) 村名は「万葉集」の高橋虫麻呂の歌に因む	筑波町(S30)	つくば市
田水山	2		田水山村(西田中・水守・山木の合併) 合併3村の頭文字を採った村名	筑波町	つくば市
島名	3	古代=嶋名郷、近世=島名村、旗本三枝氏・朝比奈氏・小笠原氏相給	島名村(島名・水堀・面野井・高田・鬼ヶ窪・中別府・上河原崎・下河原崎・下別府の合併) 古代の郷名に因んだ村名	谷田部町(S30)	つくば市
谷田部	1	古代=八部郷、中世=谷田部、近世=谷田部城下(細川忠興弟元が初代→幕末まで)	谷田部町(谷田部・上萱丸・下萱丸・飯田・中野・西栗山・片田・古館・根崎・境田・境松・羽成・東丸山・花島新田の合併)	谷田部町	つくば市
小野川	3		小野川村(赤塚・下原・新牧田・上原・稲岡・北中島・梶内・館野・松野木・小野崎・手代木・上横場・西大沼・中内・今泉・榎戸・北中妻・下横場・南中妻・市ノ台の合併) 小野川の源流からの村名	谷田部町(S30)	つくば市
真壁郡	4				
新治	1	古代=新治郷	新治村(井出蛭沢・横塚・向川澄・蓮沼・門井・久地楽・三郷・古都の合併)	協和村(S29)	S39町制施行 筑西市
椎尾	1	中世=椎尾郷、近世=椎尾村、笠間藩領のち北=下妻藩領・南=笠間藩領	紫尾村(南北椎尾村で形成)	真壁町(S29)	桜川市
大村	1	古代=大村郷	大村(松原・田宿・倉持・山王堂・中根・海老ヶ島・有田の合併) 古代の郷名に因んだ村名 S29町制施行・長鎌村合併	明野町(S29)	筑西市
五所	1		五所村(森添島・子思義・五所宮・小嶋・山崎・榎ヶ島・下江連・西山田・上平塚・大谷・灰塚の合併) 五所宮の五所神社に因んだ村名	下館市(S29)	筑西市
東茨城郡	18				
小川	7	中世=小河郷、近世=佐竹氏領→松岡藩領→水戸藩領	小川町(小川・宮田・小嶋・下馬場・中延・野田の合併) S29橋・白河村を合併	小川町	小美玉市
川根	2		川根村(木部・飯沼新田・上飯沼・下飯沼・下土師・奥谷・南川又・南栗崎・野曾・駒渡・蕎麦原・越安の合併) 沼淵川左岸に位置し、俗に矢戸川根と称していたことに因んだ村名	茨城町(S30)	
鯉淵	2	中世=鯉淵郷、近世=水戸藩領	鯉淵村(鯉淵・下野新田・五平・高田の合併) 村名は鯉淵が鯉淵からの分村であったことから 友部町(S30)・内原村(S30・S40町制)	笠間市・水戸市	
竹原	4	中世=竹原郷、近世=竹原村、佐竹氏領→水戸藩領→天領→旗本内藤氏知行→陸奥守山藩領	竹原村(竹原・竹原中郷・竹原下郷・上馬場・羽鳥・大谷・小曾内・中台・花野井・中野谷の合併)	美野里町(S31)	小美玉市
堅倉	2	中世の地名=片倉、近世=堅倉村、佐竹氏領→水戸藩領→天領→陸奥守山藩領	堅倉村(堅倉・三箇・鶴田・柴高・小岩戸・張星・部室・西郷地・羽刈新田・江戸新田・納場新田・寺崎新田・高田新田・手塚新田・大笹新田・橋場美新田・先後新田の合併)	美野里町(S31)	小美玉市
磯濱	1	磯濱村=佐竹氏領→水戸藩領	磯濱町(単独で形成)	大洗町(S29)	
西茨城郡	7				
岩間	3	古代・中世=岩間郷	岩間村(岩間上郷・岩間下郷・吉岡新田・泉・市野谷・福島新田の合併) T12町制施行 S29南川根村合併	岩間町	笠間市
西那珂	1		西那珂村(富岡・犬田・堤上・本郷・下泉・中泉・長方・鍛田・大泉・飯淵・久原・西飯岡・岩瀬・上野原地新田の合併) T14岩瀬町に S30北那珂村・東那珂村を合併	岩瀬町	桜川市
笠間	1	古代=笠間村、中世=笠間、近世=笠間城下(松平氏→牧野氏)	笠間町(笠間・下市毛・石井・日草場の合併) S30大池田村・北山内村・南山内村合併、S33稲田町編入、S33市制施行	笠間市	笠間市
北川根	1		北川根村(住吉・湯崎・随分附・柏井の合併)	友部町(S30)	笠間市
北那珂	1		北那珂村(亀岡・大月・小塩・平沢・池亀・坂本・間中・福崎・山口・入野・中里・富谷・南飯田・門毛の合併) 中世に西那珂郡と称した地の北部に当たることに因んだ地名	岩瀬町(S30)	桜川市
結城郡	1				
豊加美	1		豊加美村(山尻・谷田部・柳原・加養・種橋・肘谷・新堀の合併) 村名は豊田郡内最大の村で、水田は郡中の美を加えると命名された	下妻市(S29)	下妻市
鹿島郡	4				
大谷	1	古代=大屋郷	大谷村(鹿田・造谷・玉田・生子・田崎・上太田・下太田の合併)	旭村(S30)	鉾田市
巴	3		巴村(紅葉・菅野谷・大和田・上富田・下富田・鳥栖・当間の合併) 巴川左岸に位置することからの村名	鉾田町(S30)	鉾田市
那珂郡	2				
五臺	1	後台村=佐竹氏領→水戸藩領	五台村(豊喰新田・東木倉・西木倉・中台・後台の合併) 台地上の五か村と後台からの村名	那珂町(S30)	那珂市
中野	1		中野村(柳沢・部田野・中根・東石川の合併) 村名は「部田野」「中根」から	勝田町(S15)	ひたちなか市
猿島郡	1				
釈迦	1	色益郷・釈迦如来像を祀る金乗院。近世=釈迦村、天領	香取村(駒羽根・釈迦・磯部・前林・上砂井・砂井新田・水海の合併)→T5:釈迦・前林の一部を五霞村に編入	総和村(S30)	S43町制施行 古河市
水戸市	5				
県外	17				
総計	429				